

平成 29 年第 1 回香芝市総合教育会議 会議録

日時 平成29年11月30日(木)
午後 2 時30分より
場所 香芝市役所 5 階 委員会室

〔出席者〕

市長 吉田 弘明
教育長 廣瀬 裕司
委員(教育長職務代理者) 中木 秀一
委員 田中 貴治
委員 石原田 明美
委員 三岡 正美

〔欠席者〕

なし

〔事務局〕

副市長 鎌田 裕康	企画部長 黒越 頼雄
教育部長 村中 義男	教育部次長 福森 るり
教育総務課長 楠本 視和	学校教育課長 上谷 基博
こども課長 澤 和七	
生涯学習課長(青少年センター所長兼務) 隈崎 倫夫	
市民図書館長 仲西 靖子	学校教育課指導主事 竹田 治郎

〔書記〕

教育総務課副主幹 松田 陽介

市長 改めて皆さんこんにちは。市長の吉田でございます。早くももう 11 月の末日でございます。師走を目前に控える時期となりまして、来月はいよいよ年末に向けて慌しい時期が続きます。ご体調のほう十分

ご留意いただきたいと思います。教育委員の皆様におかれましては、日頃から教育行政にご尽力賜りましてまことにありがとうございます。特にこの秋、9月、10月、11月と市のほうのイベント等もございましたし、また国のほうでは衆議院議員選挙があったり、また台風があったりということで、いろいろとバタバタいたしました。先日は教育の日というところでもいろいろご尽力賜りましたことを重ねて御礼申し上げたいと思います。今日は第1回になります香芝市総合教育会議を招集させていただきました。大変お忙しいなかご参加賜りましてまことにありがとうございます。議題にございますように、来年度以降に関わる教育における考え方というところを皆さんにもご意見をいただきながら協議を進めてまいりたいと、このように思っています。どうか忌憚のない意見を言っていただきまして、協議のほうを進めてまいりたいと思いますので、何卒よろしくお願い申し上げたいと思います。開会のあいさつとさせていただきます。よろしく願いいたします。

案件(1)学校における ICT 環境及びエアコン機器の整備について

市長 それでは教育委員会事務局に、お手元の資料に基づきまして、学校現場における ICT 環境、それからエアコン機器を整備する際の効果または課題についての検証をお願いしてございます。つきましては、これらの事業につきまして効果的な運用の一助となりますように、委員の皆様方の意見を頂戴したいと考えているところでございます。それでは事務局のほうの説明を求めたいと思います。お願いいたします。

教育部次長 そうしましたら事務局のほうからお手元の資料に基づきまして、まずは ICT 機器の導入についてご説明をさせていただきまして、皆様方のご議論をいただいたあと、続いてエアコンの整備についてご説明させていただきます、またご議論を深めていただきたいというふうに思っております。お手元の資料をまず1枚めくっていただきましたら、小中学校の校長アンケートの結果というところで掲載させていただいております。これにつきましては10月に各小学校、中学校計14校の校長を対象にアンケートの実施をいたしまして、今後大きな課題となってまいりますトイレの洋式化、普通教室のエアコン設備、それから ICT 機器導入の3つの課題のうち、最も優先すべき課題はどれかということで、1つだけ選んでほしいということで回答を求めました。そうし

たところ、エアコンを設置してほしいというふうに回答したところが中学校2校、小学校3校。トイレについては中学校2校、小学校4校。そして ICT については小学校3校という結果となっております。ICT 機器について、これだけ見ますと優先順位が低いんじゃないかというふうに考えられる向きもあるわけですがけれども、私どもはこのハード面、ソフト面と言いますと、この ICT 環境についてはハードとソフトを両方兼ね備えた大変重要な課題だというふうに認識しております。ぜひ教育委員会として、この ICT 環境の整備を進めたいという意向を持っておりますので、このことについてこれから詳しくご説明をさせていただきますと思います。

次のページに移りまして、ICT 教育のための環境整備、その導入の背景について改めて皆様方に認識をしていただきたいと思っております。現在の子どもたちが学校教育を修了し、様々な職業に就いて世界経済の第一線で活躍するであろう近い将来のグローバル社会を見据えた人材育成、いわゆるグローバル人材育成に向けた教育が、世界各国で国家戦略としての取り組まれているという状況でございます。このグローバル人材育成というのは、単に国際理解ですとか語学力といった育成を指すということではなく、まず様々な国籍の方がこれからいろいろな社会のなかで一緒に活動していかなければならないという状況になるわけでございますので、相互理解、コミュニケーション能力、それから協調性、コラボレーション能力、そして価値創造力、イノベーション能力、この3つ、その他にももちろん社会貢献意識などが挙げられているわけでございますけれども、この3つの能力を中心とした協調型問題解決能力こそが国際標準学力となる時代がもう目の前に来ている。この背景がございます。

ページをめくっていただきまして、ICT 機器を導入したことで期待される教育効果でございますけれども、まずは ICT 機器を教育現場に導入するわけでございますので、教員自身の ICT 活用指導力の向上が図られる。それから、分かりやすい授業ができるようになったという教員がまず増加する。そして、ICT を使った授業は分かりやすい、もっと言えば楽しいという児童生徒が増加する。そして望むところでありましてけれども、学力調査での中位層また低位層の底上げが図られる。こういったことが教育効果として望めるのではないかと考えております。さらに児童生徒の情報リテラシー、メディアリテラシー、情報モラルといったようなことが、高揚が図れるということですので、もちろん児童生徒の主体的な学びが広がるという、そういう二次的な効果も期待されるところでございます。具体的な能力としましては、

左向きの矢印と右向きの矢印がありますけれども、まず日常的に ICT 機器を使いこなすわけでありますので、文書作成ですとか表計算、またはプレゼンテーションの作成などをはじめ、ファイル操作など、日常的なパソコンを使った技術的能力の向上が図れるという一次的な効果があります。また、先ほどグローバル人材育成のために必要な能力のお話をさせていただきましたけれども、まずはこの ICT 機器を使った授業を多用することによって、他者の考えと自分の考えの違いを比較しながら、協働的に新たな考えを導き出すことができるという、こういう力が育っていく。そのことが、私どもも2つの力が教育効果として期待されるのではないかというふうに考えております。

また、見る方によっては ICT 教育を進めることで、ICT を利用した教育という、どうも人と人との交流が希薄化するのではないかとすとか、あるいはリアルな場での活動が減少するのではないかという危惧を持たれる方が多いのではないかと思いますけれども、実際 ICT を導入することによって、教師が子どもたちにしっかりと寄り添える。それから子ども同士の協働が活性化する。教材を用意する時間などが圧縮されて、教師が子どもと関わる時間が増えるですとか、子ども同士がこの ICT 機器を介して話し合い活動を活発化させるといったことも可能になるかと思えます。人と人との交流はむしろ活発になって、リアルな場の活動を増やせるのではないか。そんな効果も期待されるところでございます。決して人間関係が希薄化するということではないというふうに思っております。また、家庭に戻れば、今は多くの家庭でこういったコンピューターですとか、ICT 機器が多く用いられているわけですので、社会のリアルな学びから生徒をつい隔離しがちな学校という場ですけれども、むしろ開かれた ICT を用いた教育のほうが、よりリアルな、現実社会に近いかたちで学びの質が高くなるのではないか。そういった効果も期待されるところでございます。

次のページに進みまして、授業でどう活かすかというところでございますけれども、活用例としましては、話し合いの結果を投影するですとか、全グループの活動をいろいろと確認しながら、発表グループの画面を拡大表示したりとか、授業のなかで子どもたちが自在にそれを活用するようになるのにそう多くの時間はかからないということで、すでに導入をされている事例から読み取ることができております。

また、この ICT を用いた教育を導入することによって何ができるようになるのかというところでございますけれども、小学校卒業までには簡単な写真や図表を含んだスライドを使って発表できるようにな

る。また、中学校卒業までには、自ら選んだテーマに沿って、表計算や文書作成ソフトを使用したレポートを仕上げることができる。また、グループで設定したテーマに沿って、共同作業により調べたことを図表や写真、動画などを含むスライドを作成し、大勢の前で発表することができる。こんなことを目標にすることも可能になると思います。

さらに、次のページでございますけれども、具体的なスキルの部分で言いますと、一定の目標値を掲げながら進めていくということも私どもも視野に入れて、学校とこういった目標設定は協議をしていきたいなと思っております。今年度の学力・学習状況調査の結果のなかで、香芝市の子どもたちがいろいろな記述問題の無回答をする率が大変低い、これは大変いい傾向でございます。記述問題が苦手とする子どもが奈良県は非常に多いということで、全国の結果よりも奈良県の子どもは記述問題の無回答率は高いんですけれども、そのなかでも香芝市は全国平均よりもさらに無回答の率が低いという結果を得ております。子どもたちは言葉で表現するのが苦手じゃないかということで私たちは危惧していたんですけれども、どうもそうではないんじゃないかと。そういう力が今芽生えつつあるんじゃないかと、そういう大変好ましい結果が出ているわけでありまして、ICTを導入することによってぜひ私たちはこの力をさらに後押しして、全国平均よりも一気に溝を広げて、無回答とする率を低くする。また記述問題の正答率を上げていくといったようなことも可能ではないかなというふうには考えているところでございます。

さて、30年度でのICT整備の概算費用ですけれども、これはあくまでも教育委員会として各学校に、整備方針に沿って導入した場合の最大の金額でございます。予算折衝はこれからでございますので、なかなかこのとおりにはならないと私たちも覚悟はしているわけでございますけれども、児童生徒用としましては、ぜひ小学校は1クラス分40台を、そして中学校では1学年あたり40台の導入を目指したいと考えております。また、指導者用としましては、1校あたり教員数の台数をぜひ整備していきたい。これは後には校務用パソコンと兼用できたらなと思っているところでございます。それから教室環境ですけれども、プロジェクターやそれを映し出すスクリーン、そういったものを整備する必要がございますし、またLAN工事などについても未整備のところもございますので、それも整備していきたいと考えているところでございます。こういった整備方針に基づいて、30年度はこれだけの費用がかかるという積算は出ておりますけれども、あくまでもこれからの予算の折衝のなかで実現可能な数字に落ち着いてくるの

ではないかと考えているところでございます。

次のページでございますが、今も学校訪問をしていただいておりますが、各学校にはコンピューター室がございまして、デスクトップのパソコンが平均して 20 台設置されております。その教育用のコンピューターは毎年度更新の時期を迎えますので、その度にももちろん費用がかかっている状況でございますので、今のままでも更新費用が必要となりますし、今後、今教室の大型テレビ、50 インチテレビが据え付けられているわけでございますけれども、そういったものの買い替え時期ももちろん到来するということでございます。また、一部の学校では教室が足りないところもございまして、コンピューター室が不要になってくるのであれば、そういったところの転用も可能になるということで、決して1から、0からの経費が上乗せになるということではございません。マイナスの部分ももちろんあるということで、ぜひそのあたりもご理解いただければと思っております。また、校務用のコンピューターは、今 31 年度からの計画で県域での校務システムの導入が進められるということで情報が来ておりますけれども、私どももそのなかに参加できればということで、これにつきましてはもちろん導入効果がどうだったか検証したうえで、こういったシステムにも参加できたらなと考えているところでございます。私どもは ICT を導入するにあたっては、まだまだ検証していかなければならないところもございまして、ぜひまずは環境を整えて、それを使ってもっと授業を活性化させていきたいという思いでございまして、ぜひそのあたりのことを踏まえていただいております。以上です。

中木委員

今の説明のなかで確認したいことや意見がいくつもあるんですけども、まず ICT 教育のための環境整備についてと、1 枚めくったところの内容なんですけれども、ICT 教育を進めていったら、協調型問題解決能力が、これが備わってくるというご説明、その意見は私は大賛成で、今年、先月から今月にかけて小中学校の訪問を全校させていただいたわけなんですけれども、そのなかでやはり ICT 機器を、タブレットまではないにしても、上手に活用されている教室の授業が、子どもを見ているともものすごく効果的だということが確認できました。お互いに子ども同士が話し合っって問題を解決しようという、そういう姿も目の前で見ることができ、このページに書かれてある説明、この通りだというふうに考えております。そんななかで今、人工知能、AI ですね、これがどんどん進化して普及しているという今の世の中

で、10年経ったら今やっている仕事で人がいらなくなるようなものがあるものすごくできるよというようなことが、これははっきりと見えてきたという現状があります。そういったなかで、今の子どもたちが社会人として活躍するというなかで、ここに書かれている協調型問題解決能力、どんな場面になってもやはり新しい方向で自分のいいところを活かして社会で生きていく、あるいは活躍するという場面が今の子どもたちに身につけてほしいなというふうに考えるところが私も非常に大きいわけで、そういう意味でICT教育というものにはすごく期待できる。そのための費用をかけることは、これは大変大事なことかなというふうに感じております。まず感想を申し上げました。

市長

ありがとうございます。その他ございませんでしょうか。

田中委員

私のほうも小学校、中学校の学校訪問をたくさん見させていただいて、やはり上手に活用しておられる先生がたくさんおられました。元々やはりICTでタブレットを導入して、おそらく授業として向く授業、向かない授業、それから内容というのは必然的にあると思うんですけども、やはり今まででしたら、例えばビデオをテレビで流して見るだけであったものが、例えば細かいストップモーションで、例えば化学の実験であれば、そこの変化を例えばストップモーションで見れるとか、逆に例えば技術であったり、技術家庭であったり、体育の授業なんかの場合に、例えば生徒が逆立ちしているところを仮に映したとして、どこが重心がずれているから逆立ちができないのかと。どちらかと言うと座学用かなと思っていたんですけども、現実的にはおそらく技術系であったり、そういうところのほうをもっともっとフィットする部分というのが相当あるように私は感じました。やはりその逆で言えば、漢字の書き取りとか、いわゆる読書というようなものは、これは当然やはり紙に自分の鉛筆で滑りを感じながら書く。やはりはらいやとめというのはなかなかタブレットの上では難しいだろうと思います。そういうやはり向き、不向きというのはあるだろうと思うんですが、1つ言えることはやはり学校の先生がいかにかどういいう教材を、今まででも授業に向かって学習教材を自分たちで作られていると思います。でもやはりすべてがそれをタブレットに置き換えられるわけではないとは思いますが、やはり授業の内容によればそういうものを使ったほうがもっともっと生徒たちの理解が深まる部分というのがやはりたくさん見受けられる点はあったなと、そういうふうに思いました。

市長

ありがとうございました。他にありますか。

石原田委員

私も ICT 教育は非常に重要だと思っていて、自分の経験からも申し上げますと、私は現役で大学を卒業したのは 30 年前になってしまいますけれども、その時と今また大学に戻って圧倒的な差というのはまさしくここであって、当時のインフォメーション、コミュニケーションの仕方と今がまったく変わってしまっている。例えば少し調べものをしたいときに当時は電車に乗って図書館などに行っていましたけれども、今はネットでそのまま瞬時に情報へたどり着け、論文を書いた人に質問をしたいなと思ったらそこにメールアドレスが書いていますので、どうですかと質問する。そしてお互い興味が一緒だなと思ったら、そしたら 1 回共同研究をやってみませんかというところで話が進むというように、ここにあるコミュニケーション、コラボレーション、イノベーションというのは本当に、実際に現実に動いているというか、そういうのが当たり前前の社会にもうすでになっていると思います。そういうことを考えると今の 15 歳の子どもたちの 5 年後、10 歳の子どもたちの 10 年後というときに、もっともっと先に進んでいるなと思ったら、例えばですね、この「何ができるようになるのか」のところに書いていただいていることは最低ラインと思ったほうがいいのではないかと考えていて、これはできるのは当たり前というか、ここで終わらせてしまうのもったいないというか、ここまでお金をかけて、時間もかけてやるわけですから、もっと上を目指すというときに、例えばなんですけども、授業では少し難しいかもしれないんですが、クラブ活動みたいな感じで、例えば学校同士をネットで繋いで小学校の子どもたち、ある国の子どもたちと、今もスカイプでいくらかでも繋がりますので、そういうところで交流をするとか、例えば先生同士でも、今働き方改革と日本でも言われていますけれども、ある国では残業するなという概念すらないというところで先生と交流をするとか、そういう本当にリアルな交流、インフォメーション、コミュニケーションというところでのツールでも使っていくと、それが先ほどから表現のこととか記述のこととかもありましたけれども、当たり前になる。そういうコミュニケーションが。それも世界レベルでやるのが当たり前というような感覚を、香芝の子どもたちが持ってくれたら本当に夢いっぱいと言いますか、将来楽しい未来が、子どもたちがもっと活躍してくれると思うと、わくわくと言いますか、思いますので、感想になりますけれども、もっともっといろんなことを目

指してもいいんじゃないかなと思います。以上です。

市長 ありがとうございます。よろしいですか。

三岡委員 今回この ICT 整備のことで説明をいただいたんですけども、先月から学校訪問のほうに行かせていただきまして、香芝市の ICT 教育はまだまだ先になるなと思っていたんですけどね。と言いますのは、まずは先生方 1 人 1 人にパソコンを支給していただきたい。この思いが強かったんです。あと職員室に最低限 Wi-Fi 環境を整えていただければ、とりあえずもうそこから始めていただきたいと思っていたのが、こんなに進んだ計画を立ててくださっていて、目の前に私自身キラキラする子どもたちの顔が浮かんでくるようなんですけども、ただこれから進めていただくにあたって、先生方のスキルの問題が重要になるかと思うんです。やはり得意な先生と苦手な先生がいらっしやると言いますので、先生方のスキルを統一していただかないと、子どもたちが先生が苦手だからなかなか使ってもらえないとか、そういう不公平が出てはいけませんので、いかに子どもたちが公平な平等な授業を受けていけるかということが大きな課題になってくるかと思います。

それから、今年の 2 月に松阪市の三雲中学校に行かせていただきまして、ICT 教育の本当に進んだ現場を見せていただいたんですけども、三雲中学校の校長先生のお話では、先生の自由な時間が増えたかというところではなく、増えていなくて、先生は決して楽になっていないとおっしゃってたんなんです。やはり ICT 機器を使った授業づくりにはそれ相当の時間がかかるので、業務の軽減にはなっていないということなんですけれども、ただ子どもたちの学力は全国学力・学習状況調査の結果を見ましてもポイントが上がっている。それははっきり言えるということはおっしゃっていました。

今回平成 30 年度、関屋小学校と中学校 4 校から始めていただくということなんですけれども、ただ市内全部の先生方にお 1 人 1 台パソコンというのは同時にスタートしていただけないかなというのは私の願いとしてお伝えしたいなと思います。以上です。

市長 ありがとうございました。私の所感もお伝えしておきたいと思えます。ICT につきましては、まずよく全体の県の教育委員会の協議のなかでもよく出るのが、市町村別に ICT、いわゆる PC の導入、普及率が何パーセントかという話がよくでるんですけども、これは非常に大事なことなんですけれども、要はそれが目的になってはいけなくて、

やはりその先にある、子どもたちにどういう能力を付けさせていくんだというところに主眼を置かないといけないかなと。そこがおぼろげに入れてもあまり意味がない。なぜかという PC というのは日進月歩で1年経ったらどんどん変わっていくので、やはりきっちりと見据えたなかで導入していくことが必要。もう一方で教える側の、先ほど出たスキルというのがほんとうに大事で、使い方を学んでなく、それをどう活かしていくかということをしっかり持って進めていかななくてはならないという思いが私自身にはあります。入れる以上は、PC というのは本当に今までの業務、いわゆる事務ベースの業務というのは劇的に変わります。変わりました。ですから、先ほど石原田委員がおっしゃったように、いろいろな意味で短縮できるわけで、仕事が変わらないわけがないので、それをしっかり併せてやっていかなければならないんじゃないかというふうに思います。

ちょっと気になるのは、グローバル人材育成というのは非常にいい言葉なんですけれども、グローバルというのは本当に概念として共通認識を持たないといけないと思います。世界レベルにおいて壁がないというか、そういう意味ですから、じゃあ世界を知っているのかという話になってくるわけです。それを知ってグローバルという言葉を使わないといけないので、やはりなぜかと言うと、よく過去 10 年から 15 年の企業、国のトップの会社の社名を、例えば海外と日本を比べると、日本というのはほとんど変わってないんです。海外ではどんどん新しい企業が上位何社に入ってきている。それぐらいやはり、これこそグローバリゼーションで、どんどん成長していつている。ですから協調能力のなかにやはりイノベーションというのが一方であるという証拠なんです。こういったことがグローバルじゃないかと私は理解しています。インターネットは非常に情報の取得が楽になりますから、今年我われが経験しているのはスーパー中学生というのを皆さん経験していると思うんですね。将棋の藤井君であったり、スポーツ界にもすばらしいのがいますね。あるいは普通の過去のかたちでは全然考えられない、でも AI であったり過去の対戦成績のデータがすべて今簡単に入手できるからこそ、今までトップに立っていつて名人に会わないとできないことが簡単になっているからこそ、自習能力アップができるんですね。ですから 13、14、15 歳で能力が上がっていく。昔高校生が 150 キロの球を投げられるかという投げられなかったですね。でも、なぜかというとその練習方法だとか投げ方だとか、いろいろ過去の成功例を、本人に会わなくても情報をいっぱい吸収できるからこそスピードもあがるんじゃないかと思うので、こういった

ところというのは非常に大事なかと。香芝市はまだ国際姉妹都市提携がないんですけれども、いみじくも先ほどおっしゃっていましたが、このインターネットを使ってそういう姉妹都市の子どもたちと情報交換をしてですね、そういうような教育なんか非常にいいのかなと思います。私の友人でも海外に一度も行ったことがないのに TOEIC910 点を取っている人がいます。これはやっぱりそういう情報のやりとりでやっているんだと。これこそインターネットのグローバル化とかグローバル人材の育成かなというふうにも感じたので、そのあたりも含めて進めていかないといけないんじゃないかなという思いを持ちました。

教育長

今、委員さん、また市長のほうから非常に貴重な意見を頂戴して、私も本当にその通りだなと思いながら聞かせていただきましたけれども、先ほどから話の出ています全国学力・学習状況調査。これはちょうど 10 回目くらいになるんです。平成 19 年から始まって平成 23 年あたりに 1 年とんでいるときがあるんですけれども、そんななかで劇的に変わっていることと言えば、例えばケータイやスマートフォンを持っていないという質問に対して、その回答は、平成 26 年度と平成 29 年度を比較しているんですけれども、小学生で持っていない数が 46 パーセントから 37 パーセントに減っている。逆に 63 パーセントは持っている。中学生では 23 パーセントから 16 パーセント。つまり 10 人のうち 9 人はスマートフォンやケータイを持っていると。これが今の中学生の実態なんです。中学生はもう日常的にそういったものを使っていると。それからまた教員に対して質問した場合、ICT を活用して子ども同士が教え合い、学び合うなどの学習、共同学習や課題解決あるいは対話型の学習指導を行っているかと教員に聞いたら、要するに ICT の環境があってそういう教育を行っているかと聞いたら、肯定的な意見、行っているとといった回答は、小学校で 47 から 72 パーセントに、これ平成 25 年と今回 29 年の比較なんですけれども、この 4 年、5 年の間に小学校で 47 から 79 パーセントに増えていきます。中学校では 45 から 64 に増えている。他所のことはどうこうじゃないんですけれども、今この実態を見ても全国的にかなり早いスピードで ICT 環境が整えられ、教員がそういった教育を行っていると思われれます。

それから当然、先生方はやはり得意、不得意それから個性もありますので、例えば ICT が得意な人もあれば、いや私は書道が得意だという方も当然おられます。でも少なくとも同じ学年で、例えば 1 つの学

年で5年生を5人が持っていたら、絶えず教員はその5人で教材研究をしながら子どもにどのように教えるのかという話は、これは他の教科においても絶えずしていますので、もちろん不得意な人は若干時間がかかるかも分かりませんが、あるいは自分で勉強する機会が増えるかも分かりませんが、私はこのあたりが今後これが進めていくなかであまり心配する必要はないんじゃないかなと思います。

それからもう1点、最後にもう1点なんですけれども、シンギュラリティという言葉が今よく社会で言われています。技術的特異点。2045年問題というふうに言われるんですけれども、2045年、これから30年後にはコンピューターが人間を超えるんじゃないかなという話をよくされます。そこまでやはりどんどんコンピューターが進化してきます。当然人間しか持たないもの、あるいはコンピューターにできないものを教育のなかでこれからやっていかなければならない。例えば先ほど出てきた体験学習、これはコンピューターを使えば使うほど逆に生身のものに触れる。本物に触れるというんですか、そういうことをしなければなりません。それがまさに教育で、教育というのは単にICTだけ、コンピューターの教育だけやれば子どもの教育が進んでいくんじゃないし、まさにバランスの取れた、それが今後子どもたちに求められる、あるいはこれから未来に生きる子どもたちの教育だと思います。以上です。

市長

ありがとうございました。ちなみに昨日、県のほうで青少年健全育成協議会がありまして、私は委員で出ていました。内容は少し違って、iPhoneの有害サイトが今までは甘かったんですけれども、今後フィルタリング、いわゆる有害サイトへの防止というのを、選択じゃなくてまずは義務化しようというような条例を立てていくと。親が申し出れば外すというのはあるんですけれども、一旦そういうような条例を立てる。そういったなかで今おっしゃったデータが出てきて、ちなみに高校生は95パーセントでした。所有率が。したがって、もう教育という以前の問題で、どんどんやっぱり進んでいるということを我われは認識して進めなければならぬということだと思いました。

田中委員

先ほど石原田委員や三岡委員のお話を聞いて、いくつか思い浮かんだ話で申し訳ないんですが、例えばこういうふうなかたちでICT機器を仮に導入すると。ただそのなかでスカイプという話もありましたけれども、例えば今やっている中学生議会がありますよね。あれなんかは逆に言えば各学校と、夏休みじゃないし、どこか総合の学習の時間

のなかで、例えば各教室で見られるようにしながら、例えば議会と学校を要するに中継、繋いで、多元的なかたちでそういうものをするとか。こういうことっていうのは必ずできると思います。やはり授業で使うというのは大前提だと思うんですけども、やはりそういうかたちで次から次、これをどこに広げていけるのかという視点もやはり相当必要なものではないのかなというふうに1つ思います。

それともう1つは、特に三岡委員のおっしゃったように、各先生方にこういうものをできるだけ早期に配布してほしいというご意見なんですけど、私もまったくその通りだと思います。やはり結局こういうものを整備して、やはり成功するかしないかというのは、やはり指導する側のスキルということにやっぱり直結していると思います。確かに子どもたちのほうが数段進んでいる世界は実際あると思うんです。それはそれで子どもたちは授業やプレゼンテーションのなかで発揮していったらいいですし、例えばさっきの多元中継的なことをするとき、スキルのある子どもたちはその設定を先生と一緒にすればいいと思うんです。そんななかで、やはり今の学校現場において職員室のIT化がまったく進んでいないということは非常にやはり問題だと思います。私個人的には、そのなかで、今回の整備計画の整備方針のなかでやはり指導者用というかたちで、教員数の台数を校務用パソコンと兼用というかたちで、先ほどもありました平成32年の県の校務システム、県域のものに乗っかるかどうかというのは、仮にそれを繋げていくとなったときに、やはり授業でも使える、校務でも使える。やはりどちらかと言うと、タブレットを生徒に導入するのも大事な視点だと思うんですけども、それ以前としてやはり自分たちで、目の前に例えば置かれればいやおなしに使わざるを得ない面は絶対だと思います。隣の先生はいっぱい使っているのに、埃を被ったまま置いておくわけには絶対いけないと思うんです。こういう部分であるとか、例えば学校訪問のなかで、特に小学校のなかで思いましたのは、やはり短冊みたいなものを作って黒板に掲示して授業をしておられる先生が結構やはりいらっしゃいました。なかには模造紙1枚そのまま大きいものを作っておられる先生も。やはりこういう部分というのは、おそらくIT化に一番フィットする部分で、手書きの良さというのはあるにしても、例えば大型のプリンターを導入して、そういうものをプリントアウトして要するに授業で使うと。授業に対する教材の作る時間をやっぱり短縮することで、例えば他の校務であったり、児童生徒たちと向き合う時間を増やす。授業のなかでもそうだと思うんです。板書している時間があるのであれば、そういうものをできる

だけ活用して、生徒のほうを向く。ないしは要するに生徒の間を巡視しながらやっぱり指導する。こういう時間にもっともっと使ってもらえるようにすべきかなと思うんです。そのなかで、やはりこういう整備するときには、やはりちょっとランニングコストもかかりますけれども、大型プリンターというのの中には少し考えに入れておいてもらいたいなというのが私の個人的な意見です。以上です。

中木委員

今度は事務局の方にお尋ねということなんですけれども、概算費用のご説明をいただきましたよね。この整備方針に書かれているのは小学校1校と中学校4校で、各1校あたり1クラス分。小学校では5年、6年。中学校は1学年、2学年、3学年それぞれ1クラス分。ということでこれだけの費用がかかるというように読めるんですけども、それが間違いがないかということと、これが全体の学校数に比べて3分の1くらいで、教室数から言ったら中学校6つ、7つというクラスが圧倒的に多いわけなんですけれども、全体整備費用としたら単純にこれかけるそれだけの率、10倍とか、そういうことになるのかという、整備方針に書かれているこの、とりあえずこれまずはやりましょうというものと額がかけ離れているんじゃないかという心配があります。それだけまず確認させてください。

教育部次長

基本的に40台で足りるのかということにつきましては、ICTを導入するうえで子どもたちが1人1人使う場面もありますけれども、最初導入の使い方としては、例えばグループごとに1台というような使い方をすることの頻度が大変多いというふうに聞いております。ですので、40台だから1クラスということではなくて、40台導入すれば、例えば同時に何クラスも使うという使い方もちろん可能になってくるというふうに思っております。この金額にはLANの工事等も入っていますので、単純にタブレット1台あたりいくらかというところというともっと圧縮された金額になりますので、そこについてはポンと数字が1つ乗っかっているんで、これが全部同じようにかかっていくのかというご懸念かと思っておりますけれども、この内訳で言うとタブレットの分についてはもっと小さな金額になっていますので、そこについてはこれが何倍もかかるというようなイメージで捉えていただかなくてもいいのかなと思います。大変複雑な中身になっています。だいたいタブレット1台は定価ベースで言うと10万円くらいのもので、単純に考えるとそれが40台で400万円くらいとなってくるわけなんですけれども、これに伴ういろいろなアクセスポイントや、ある

いはそれを表示するための機器だったり、そういったこともトータルで、特に関屋小学校は LAN 工事も含んでのことですので一定の規模になっていますけれども、そういったものが必要のない学校もすでにありますので、そういう意味ではもっと小さな額で同じように導入していくことは可能になってくるのかなというふうに思います。

市長 他によろしいでしょうか。コストのところは非常に悩んでいるところでございます。ですから、さっき使わなくて置いてあるというのがあったら、それは多分そんなものには出せないよと、ここに総務部長がいたら怒るはずなんですね。ですからやっぱり、どのようにしていくのかという、どのように使っていくのかという、先生が1台持ったらどのように使っていくのかというところまでしっかり目標を決めて進めていくのが肝要かなと思いますし、一方で先生も朝から晩までずっと机の前に座っているわけではないので、ほとんどが授業をしているわけですから、先生に1人1台というのも、使う時間を考えたらどうかなという議論もあるんですけども、それはさておき、やっぱり進めていかなくてはならないなと思っております。

市長 ICTについてはこれでよろしいでしょうか。

市長 それでは次の説明のほうを事務局お願いいたします。

教育総務課長 続きまして、エアコン整備についての説明のほうをさせていただければと思います。資料のほうをご覧ください。文部科学省のほうは、学校環境衛生基準という基準におきまして、学校の教室等の温度に係る基準としましては10度以上、30度以下であることが望ましいと示しているわけですが、現状夏場においては教室内の室温が高温状態になることがたびたびありまして、基準を満たしているとは言えない状況でございます。

エアコンの設置率のほうですが、下にありますように、香芝市の設置率としましては普通教室は4.3パーセント、特別教室は31パーセントとなっております。また、こちらには書いてはいませんが、全国平均としまして29年4月現在で普通教室は49.6パーセント、特別教室は34.6パーセントとなっております。

次のページをめくっていただきまして、本市におきまして学校施設における空調設備の整備につきましては、プレハブ校舎の普通教室等に設置したケースはございますが、基本的には従来から図書室などの

特別教室を中心に整備を進めてまいりました。そちらにございますように、平成 30 年度の設置予定ということで、三和小学校、鎌田小学校の音楽室の空調設備と、二上小学校の図書室ならびに旭ヶ丘小学校の保健室、こちらは改修事業になるんですけれども、こちらのほうを予定しているわけですが、先ほどの現状等を踏まえたなかで、毎日使う普通教室への設置も優先すべきではないかということも検討しております。これも資料には記載していないんですが、近隣の自治体の設置状況なんですけれども、県下 12 市の設置状況につきましては、五條市および葛城市の中学校におきましてはすでに空調化が実施されております。その他自治体につきましては一部の普通教室や特別教室で部分的に導入されているのが現状でありまして、今後の設置予定につきましてもほとんどが検討中あるいは設置予定なしとの状況になっております。ただし、大和郡山市につきましては平成 30 年度に中学校への空調設置を予定しておりますほか、近隣の町村で見ますと広陵町のほうが今年度にすべての小中学校への空調設備の導入を実施しております。その他、県外の近隣自治体で言いますと、大阪の柏原市が今年度中に中学校への空調設備導入に向けた設計を行うとのことでございます。

次のページですが、普通教室の整備にはどれくらい費用がかかるのかということになってくるんですけれども、こちらのガス空調を設置すると想定した場合の概算工事費としまして、中学校で 225,000 千円、小学校で 523,190 千円となっております。こちらに書いております教室なんですけれども、部屋割り、部屋を割って使用している特別支援教室を含めまして、普通教室の形態をしているところの数をカウントした場合の現時点での教室数で見た場合、これくらいの数字、予算額にはなってきます。

そのエアコン設置のメリットでございますが、次のページをご覧くださいのですが、こちらは確定的な話ではないんですけれども、教育総務課のほうにおきまして想定あるいは任意に抽出した情報であるんですけれども、そちらのほうを議論の参考にしていただければと思ひまして掲載させていただいております。メリットとしては、熱中症など生徒が体調不良を起こすリスクが低減される。快適な室温を保つことで生徒らの集中力が向上し、その結果、学力向上にも繋がる。夏期休業中でも日中の教室で補習などを実施することが可能となる。夏期休業期間を短縮することで、授業時間を平準化することが可能となり、職員の業務改善や、生徒らの放課後のゆとりに繋がる。夏期休暇を短縮することで、小学校中高学年の年間 35 単位時間増、これは

外国語活動や外国語の授業時間数が確保しやすくなるというメリットが考えられるということで挙げさせていただきました。

それに対しまして、想定しうるデメリットなんですけれども、整備するには大きなコストが設置、運用、更新に対して必要になります。また従来からの夏期休暇中の平日に開催されている部活などの大会や教職員の研修会、講習への参加が困難になる。教職員の年次有給休暇や夏期休暇の取得が困難になる。給食を実施する場合は喫食回数が増えて給食費の値上げにも繋がるとともに、夏場ですので食中毒のリスクも高まる。このようなかたちでデメリットのほうも挙げさせていただきました。以上これらの件につきまして、市長ならびに各委員様のご意見を頂戴できればと考えております。以上です。

市長

ありがとうございます。エアコンの導入というところでの説明をいただいたわけなんですけれども、これに関しましてもご意見賜りたいと思います。いかがでしょうか。

中木委員

今エアコン設置についてメリット、それからデメリットという説明をお聞きしたわけなんですけれども、メリットはこのとおり誰もがいい環境のなかでしっかりと授業を受けるということ。それから今後授業の時数確保が非常に難しいという方向になろうとしているなかで、夏期休暇の短縮ということは今まで考えることができない環境にあったんですけれども、それが考えることができる環境になると。本当にそのとおりだと思っておりますし、そうなれば学校現場も仕事をしやすいんじゃないかという気がします。同時にデメリットも表現していただいているんですけれども、大きなコストがかかる。これはもうそのとおりで、ランニングも含めたら、毎年インシヤルだけじゃなくて相当の費用がかかるということは覚悟しないといけないと思います。これは市の財政事情ということを常に念頭に置いたうえで判断する必要があると思うんですけれども、それ以外に3点ほどデメリットを挙げていただいておりますけれども、夏期休暇を短縮するとしたら、こういう3点ほどのデメリットがあるというご指摘はそのとおりだと思うなかで、それぞれは工夫によっては如何様にも対応できるものじゃないかなというふうに考えております。そういう意味でコストということだけは大変大きな問題でありながら、夏のいい環境を提供するということに向けて、周辺の市町村だけじゃなくて、県外のことも含めて残念な数値が並んでいるんですけれども、できるだけその数値が上がるような方向になればありがたいなと思っております。

ざいます。以上です。

市長

ありがとうございました。他にございませんでしょうか。

田中委員

私も中木委員と一緒に、エアコンを設置した場合のデメリットはまずはコストだと思うんです。この部分は導入するかしないか二者択一の問題であって、だからこそコストということになってくると思うんですが、それ以外の部分に関しては直接的に生徒児童にマイナスになる要因のデメリットがあるのかと言われると、確かに工夫のなかでどうともできるものだと思います。例えば中学でもし中学の総体が例えば夏休み期間中の授業と被ってしまえば、休むこと自体は公欠扱いとなるかたちで、授業を受けられないというデメリットは出てくると思うんですけれども、おそらく何年かのなかでやはり各県内の市町村の動きそのものによってやはり変わっていくものであろうかと思えます。それから食中毒なんかの場合は、これは特に小学校、中学校の場合は給食センターですから、そちらの管理を十二分にしてもらうしか方法はないなど。小学生のほうに関しては確かにこういう懸念というのはまったくないとは言えないだろうとは思えます。

ちょっと実は最近5月くらいから非常に気温の高い日が増えているものですから、ちょっと一度調べてみたんです。土日祝日を除いたかたちで、5月で、先ほどの基準である30度というので言えば、今年も去年も30度を香芝市で超えているのは30度で見ると1日だけなんです。ところが、実際ですね、例えばエアコンの設定基準というのは28度にしましょう。これが正しいのかどうかは別の話として。あくまで外気温の問題ですから、これが教室のなかの、建物のなかの温度となると変わってくると思うんです。一応よく言われる省エネの28度という部分で仮に見たときに、今年でしたら全部で7日間、これは土日祝日を除いてですね、7日間。2016年、去年でしたら11日間あったんです。ここまでの気温の日が。これっていうのはよく記憶のなかで言うんですけれども、私が高校生であったころに30度になれば新聞に載りました。今日は30度を超えましたと。やはり体温と同じような気温がごくごく普通になってきているなかで、5月の時点から、去年の28度が11日間あったというかたちでいくと要するに授業のうちの半分くらいは相当暑いなかで子どもたちが授業を受けているという状況になっていると思います。やはり、地球が温暖化しているのか、寒冷化しているのか、という説もありますけれども、現実にはやはりこの数年間を見ていると、明らかに5月の時点で暑い日が

たくさん出ているということは、そういうかたちになってきているということは、やはりもうそろそろ教育環境ということを考えてときに、エアコンの導入というのもやはり必須ではないのかなと個人的にはそういうふうに思います。そのなかでやはりこれを導入すれば、やはりここに書いてあるように当然小学校でしたら外国語活動、それから小中の道徳ですね、こういう部分の時数というのは増えてきている部分がありますので、ここらへん総合の学習の時間を転用しなさいとかいう1つの方針も出ているみたいですが、おそらくこれをきちんとやろうと思えばなかなか時間を確保できないということがでてくると思うので、そういう意味でも学校の設置というのはできるだけ早い段階でお願いしたいなと個人的には思います。以上です。

市長

ありがとうございました。次にご意見をいただける方。

石原田委員

このエアコンのことについて他所の国はどうなっているのかなと思って、まさしく ICT を活用して、「air conditioning in schools」という検索ワードでやってみたらどういう記事が出てくるのかなと調べてみたんですけれども、出てきた記事で圧倒的に多かったのがやはりアメリカの記事で、あちらも資金がないということでエアコンが付けられないという問題が出たんですけれども、そこでテーマとなっていたのが、エアコンの設置率と子どもたちの学力の相関関係でした。当たり前と言えども当たり前ですけれども、環境が悪い学校の学力が低いということが実証されているというふうな記事が多かったんですけれども、話が少しづれるかもしれないですけれども、じゃあ香芝がどうなっているかを一度検証してもいいかなとは思いました。校長先生方のお話を聞いていても、学力テストの結果が気になるということでおっしゃっていたところもあるので、ひょっとしたらその理由の1つに学校の施設、設備が整っていないことが子どもたちの学力に影響を与えているということが証明できるのかどうか。1つそういうことがきっかけとなるのかどうか調べてみてもいいかなというふうに思いました。

あと記事として出ていたのは、ある一定の温度以上になってしまうと、子どもたちの健康管理に対して責任が取れないということで、基準を決めて何度以上になると学校は、学級閉鎖じゃないですけれども、帰宅させるというようにしているようなところもありました。ですから、今はエアコンを付けるか付けないかという話になっていますけれども、やっぱりそれを何のためかというところでいくと、子どもたち

の、先ほど ICT と同じで、どんなふうに環境を整えていってやるかっていうことになるかと思いますので、ポリシーというか、何を大切に考えるかということを一回検討してもいいのではと思いました。あとはエアコン設置率が低い、奈良県が低いということでも英語の記事が、ジャパンタイムズですが出ていたんですけども、そこでなぜ奈良がエアコンを付けないかというのを理由として挙げているところに、耐震工事を優先させましたということと、子どもはやはり四季を感じる必要があるから暑いときは暑くていいんだとか、エアコンを付けてしまうとそれがかえって体に悪いんだとか、暑いのを我慢する忍耐力を養う必要があるとか、何て言うんですか、理由って付けられるんだなと言うか、それがやっぱりある人から見るととても奇異と言うか、そういうことを改めて感じて、話がいろいろと逸れてしまいましたが、やっぱりエアコンを付けるのはなぜというところをもう 1 回振り返ってもいいのかなと思いました。以上です。

市長

事務局、データは持ってないですか。僕の記憶では ICT も低いし、エアコンの導入率も低いですけども、学力は県下でナンバー 1、2 ですね。確かそのはずです。だからこれがいい効果なんだねって、そういう冗談を言って話したこともあるくらいです。ありがとうございました。

三岡委員

今の石原田委員の意見には私も共感しているんですけども、やはり市民の方々の税金でエアコンを設置するということになりますと、いろいろな考えの方がいらっしゃって、子どもは暑さ、寒さにも耐えられる力を付けるべきだ、忍耐力を付けるべきだという根性論をお持ちの方も確かにいらっしゃると思うんですけども、現実に子どもたちの授業を見ていますと、私もオープンスクールの日午前中だったんですけども、数年前でした。委員の立場になる前だったんですが、担任の先生に、この暑いなかで授業をされるのは大変ですねと休み時間にお声をかけたところ、午前中はまだなんとかいけるんですけども、午後からは地獄ですよとおっしゃって、それが本当に先生の本音だと思うんですね。子どもたちも暑いなかでは授業に集中することができませんし、また先生方も冷静に落ち着いて授業をするのがなかなか難しいと思います。そういったことから、ぜひとも早くエアコンは設置してほしいなと以前から思っていました。

やはりデメリットを挙げられているんですけども、これは工夫次第で如何様にもなるかと思えます。やはり給食、食中毒の問題

がありますので、給食を食べずに午前中で短縮で帰らせてしまうということもできますし、中学校のほうは広陵町と連携して、給食センターを使うかどうか、短縮にするかという取り決めもまた必要になってくるのかなと思います。広陵町のほうもこの夏からエアコンが導入されましたので。

あとやはりコストの問題が大きいんですけれども、私も少し調べましたところ、3分の1は国からの補助が出るそうなんですけれども、例えば京都市は設計から維持管理などのメンテナンスを一括発注することで経費を3割削減されたそうで、また埼玉県のある市はエアコンをリースすることによって市内の小学校20校に設置した場合にかかる約10億円の経費を年間8千万円に減らしたということもあるようです。今挙げていただいています、概算費用はこれから少しでも削減可能な数字なんですよね。ここは空調ということで書かれているんですけれども、冷暖房ということで考えますと、やはり今各学校には灯油のストーブを置かれているんですけれども、やはりあちらも危険性がありますし、中学校では子どもたちが灯油を給油しているらしくて、今の子どもたちは自宅で石油ストーブに給油することは昭和の時代と違ってあまりないと思いますので、よく石油をこぼしているという話は耳にします。やはり危険もありますし、特に女子はストーブに近寄ってスカートを焦がしてしまうということがよくあるそうで、安全面からしても冷暖房の空調の切り替えの本当の過渡期にあるんだなと思いました。

あと1点なんですけれども、小学校、中学校のエアコンの設置ということでお話聞かせていただいております、幼稚園に関してはまったく書かれていないんですけれども、幼稚園のほうでも進めていただくと予定はあるんでしょうか。

市長 事務局、アクションを起こしてください。

教育総務課長 幼稚園の普通教室の空調設備については現時点では、認定こども園および夏休み中に3歳児の預かり保育を実施しているクラスを設置対象の基本としているほか、職員室や一部の特別教室にも設置しております、現時点で普通教室35教室のうち14教室に設置しております、整備率は40パーセントと、小中幼のなかで一番高いんですけれども、このあたりにつきましてもぜひ考えていければと考えております。

市長 はい、他によろしいでしょうか。

教育長 ありがとうございます。本当にいろいろと考えていただいていることと感謝申し上げます。私も教員になった40年近く前は、先ほどの話ではないですが、暑さに寒さに打ち勝つのが大事だと、そんな身体を作らないといけないと言っていて、まさに昭和の時代で、私は石炭の時代だったんですけれども、そんな時代でした。ただ、本当にライフスタイルが変わってきて、現在家庭でエアコンがない家、子どもたちがエアコンのない生活というのは、今の小学生であればほとんど生まれてから経験していないんじゃないかという気すらします。そんななかで学校に来たらエアコンのない生活なんですけれども、今の子どもたちを見ていたらエアコンが必要、そんな環境が大事だなと思います。もちろん子どもがいる部屋というのは子どもがいない部屋と比べたら格段に暑いんです。特に中学生3年生あたりの部屋であれば、教室に40人近く入っていたら、本当に気温とか子どもがいないときの温度と比べたら格段の温度が違いますので、ぜひそんな点で今後エアコンが必要じゃないかなと。以前は夏休みは家庭に返すんだということを先生方に私もお願いしていました。ところが今はそうじゃなしに、学校でできることは学校でやろうと。現在のところ中学校でも夏休み中に学力補充であったり、あるいはもちろん部活動もそうですけれども、いろいろなかたちで学校に来ております。ところが学校に来ててもエアコンがないので、エアコンが入っている特別教室でしかできないという現状がありますので、夏休み中まったく40日間エアコンが遊んでいるんじゃないかという議論が片一方ではあるかもわかりませんが、やはり今後学校も8月をうまく活用しながら子どもたちの教育をより進めていく方向にいくべきだなという感じはします。

市長 ありがとうございます。意見をいただいて、私もエアコンを入れていくことに対して非常にいいことだという認識を持っていることだけまずお伝えしておきたいと思います。1つ、決して根性論ではなくて、私はいわゆるドクターとお話する機会が何回かあるんですけれども、専門医のなかで、例えば小学校3年生くらいまでの成長期において、発汗という意味で考えたときに、ある程度エアコン、デイタイムですね、において、そこをどうなのかということをおられる方は比較的多いという認識も持っているんです。もちろん家に帰られて、夜間とかですね、そういうときに対してエアコンを止めろという意味ではなくて、やはり低学年とか、ですから小学生といっても1年

生から6年生までであるわけなので、そのあたりの専門の方々の意見なんかでもデメリットのところに記載しないと、夏期休暇の取得、こんなものを赤のハイライトにするようじゃだめで、そういう専門性の医者の、ドクターの方々のご意見も入れて、そういうのも懸念があるよというの、本当はあってもしかるべきなんじゃないかなというような気は私はします。それは私の意見ではなくて、客観的な意見が出ているということですね。

とはいえ時代は変わっているというのもありますので、それはそれでやっていかないといけないなと思います。せっかくエアコンを入れていくので、やっぱり年間のなかで先生方からよくアンケートをとると、非常に残業が多いので、もっともっと子どもたちと向き合う時間が必要なんだとか、科目が増えていっているとか、6時間授業じゃなくて5時間授業にするとか、そういったところが現在夏休みが仮に40日あれば、10日くらい縮めてですね、そこでそういったものを補っていく。エアコンも効いたなかでやっていく。環境も整えるし、そういうことも変えていくということも併せて考えるきっかけになれば非常にいいことじゃないかというふうに私自身は感じました。

いずれにせよ、これもコストで、東京都は都が負担とか補助を出したりしているんですね。皆さんもご存知のとおり、今文科省は、中学校の給食センターもそうですが、それから体育館の補修もそうですが、本当に補助も全部、若干裏切られた感があって、ついていない現状で、実際単費でいったり、荒井知事のほうから無利子の供与をいただいたんで、なんとか乗り切れているのが現状ですので、これはこれでシビアなことなので、また一緒に慎重に考えなければならぬと思っております。以上です。

市長 改めて他に補足ございませんか。よろしいでしょうか。

市長 それでは今日の大きな議題としての ICT とエアコン機器というところで説明をいただいて、ご意見を頂戴しました。

案件(2)その他

市長 それでは2つ目の項目「その他」ということをございます。今の事務局の説明以外に、委員の皆様からこの場でご意見等ありましたら、忌憚のない意見、ジャンルは問いませんのでお願いしたいなというふうに思います。いかがでしょうか。

中木委員

先ほど事務局の方に若干お聞きしたとと被るんですけども、冒頭に校長アンケートという結果が出ていて、そのなかでトイレを要望していると、トイレの改修ですね、それが最も数のうえでは多かったということなんです。去年の総合教育会議のときに、トイレの改修ということが話題になって、具体的な動きも現実出てきているところなんです。大規模改修と一緒にやっっていこうというような場面と、それでは待てないというところでやっっていこうという、そういう場面。最長でも15年というところで整備していこうというような方向性が前回出たと思うんですけども、それについて方向性が変わっていないかどうか。もう一度ここで確認したいと思っております。

教育総務課長

ここ最近の状況で言いますと、トイレの洋式化につきましては平成28年度に香芝中学校、先ほどありました体育館の大規模改修と合わせまして体育館施設内の洋式化を実施しました。今年度につきましては志都美小学校の屋外トイレの洋式化工事を終えましたとともに、来年度以降の香芝西中学校全体の洋式化を踏まえた設計業務のほうも行っております。今後も国の補助金の交付状況や大規模改修のタイミングと合わせまして、各校のトイレの洋式化を順次進めてまいりたいと思います。以上でございます。

市長

ありがとうございました。よろしいでしょうか。

市長

他にありますか。

田中委員

エアコンの話にまた絡んでしまうんですが、先ほど三岡委員から質問のありました幼稚園のエアコンの整備に関してなんですが、以前の教育委員会会議のなかで、保育所と一緒にすることでこども課ができたなかで、やっぱり設備に対する平準化というのは優先的にお願いしたいというお話は一度させていただいたんですが、今先ほど楠本課長から説明ありましたように、今のところ3歳児のあるところが優先的にエアコンが設置されていると。それに対して3歳児の受け入れてないところの整備が基本的に遅れていると私は認識しているんですが、やはり設備の平準化という部分で、できるだけ早急に段取りをまずお願いしたいというのがまず1つ。

それと逆にですね、これ人的資源と言うのか人の配置をどうするかという問題はあるんですが、確か3歳児までを受け入れている幼稚園

に関しては、夏期休業中も確か預かり保育が一部導入されていたと思うんですが、それに対して4歳児5歳児だけのところはそれもされていないはずだと思うんです。ですから、なるべく早期に導入していただいたうえで、4歳児5歳児だけの園も夏期休業中の預かり保育の導入というの、これも同時に検討していただきたい。ただし、当然人的資源の配置の問題とかそれ以外の予算も出てくるかと思うんですが、この部分も早急に検討していただきたいというふうにお願いします。

市長 ありがとうございます。他によろしいでしょうか。

三岡委員 今の田中委員のお話なんですけれども、私も先ほど幼稚園のエアコンについて触れさせていただいたときに申しそびれたんですけれども、私個人としては幼稚園のほうからエアコンを進めていただきたいなというのは思っておりまして、先日オープンスクールするときも二上幼稚園のほうにおじゃまさせていただいたときに、寒い日だったので子どもたちは石油ストーブを付けていたんですけれども、危険のないように大きな囲いで囲われていて、かなり保育室が、子どもたちのスペースが狭い状態になっていたんですね。でもやはり石油ストーブは危ないですし、そうやって子どもたちの保育スペースも狭くなってしまうので、できたら冷暖房を幼稚園のほうから進めていただきたいな思っております。以上です。

市長 ありがとうございます。他によろしいでしょうか。

中木委員 すいません、あと1点。先ほどトイレについてお聞きしたのに関連する話になろうかと思えますけれども、教育委員会で管理している施設が、市のいわゆる固有財産、建物部分の70パーセント近い部分になると。ところが全体について市長部局のほうでファシリティマネジメントの観点で、今年度具体的にどうするかということを決める年度という位置づけになっておったと思うんです。それらもですね、ある時期になった場合に教育に関係するところがたくさんございますので、我われにもその方向性といったところ、それをお見せいただけたらなと希望いたします。以上です。

市長 何かコメントできますか。

副市長 今後個別計画というかたちで具体化してまいりますので、おっしゃるように具体化されてまいりましたらその情報はすべて提案させていただきます。

市長 それでは教育長お願いします。

教育長 ありがとうございます。まず10月から11月にかけてかなり長い期間だったんですけれども、学校訪問に教育委員さんに行っていました。そしてまた市長も大変お忙しいなかでございますけれども、学校訪問に行っていて、学校現場を本当に隅々まで見ていただいた。そのことを元にしながら今日の話し合いができたんじゃないかと思えます。今後とも香芝市の小中学校だけじゃなしに、幼稚園、保育所、こども園も含めて、いろいろな機会に現場を実際に見ていただいて、またいろいろなご意見頂戴できたら非常にありがたいと思えますし、改めて感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

市長 ありがとうございます。私も最後をお願いというか、お話もしておきたいんですけれども、先ほど言った、やはり幼少期の子どもたちのところについてのスタディを少ししていただいて、一般的、客観的なご意見をどこかで報告できるようにしてほしいです。今回我われ、私も一緒に、皆さんと一緒に一部でしたけれども学校の授業内容、それから施設についても直接私も見させていただいて、感じるところが非常にあってですね、実際その子どもたちはあれだけ寒いときでも半ズボン履いて真冬でもいるわけですよ。じゃあ、いや寒いじゃないかというのは親の、大人のエゴで、彼らは半ズボン履いてタイツも履かずに真冬でも走り回っているわけですよ。そうすると夏はもちろん暑いんでしょうけれども、我われが感じているのとちょっと違うかもしれないので、そういう意味で少し調べてほしい。考えられないですよ。僕も小さいときは半ズボン履いて実はおったんですよ。真冬でも。そう思ってやっていると忘れていた風景が目当たりにして、やっぱり僕らでは考えられないけれども、彼らはそれが普通なのかなと思うと、ちょっと子どもたちの時代、成長期というのは違うのかなという気がしますので、そのあたりは専門的な見識は1ついるのかなと思います。それが1つです。

それから30年度に向けて今日この2つの案件が出てきましたけれども、全部ざっと足し算すると10億以上で、香芝の税収は70億少しですよ。交付税とかは別にして。ですからそれくらいのバランスだ

ということで、やっぱりこれだけでそれだけのシェアが占めていくということなんで、やっぱり真剣にやっ行って行かなければならない。必要だということと、一方でやっぱり真剣に考えなければならぬ。ですから、本来ならこの積み上げの予算が出てきたなかで、やっぱりスクラップするのは何なんだと。やっぱり物事にはスクラップビルドがいて、エアコンを入れるなら灯油の経費がいらなくなるので、じゃあそれはいくらマイナスするんだということも考えていかなければならないし、何か教材を入れるんだしたら、ICTを使うんだしたらこれはいらなくなるよと。こういうものがいらなくなるよと。要は印刷する紙なんかはどんどん減るよねとか、8割カットできるよねというかたちでやっ行っていかないと、パソコンは入れるはコピーは今までと一緒、消耗品も今までと同じようにいりますよって言うんだしたら、それは家に荷物がどんどんどんどん入っていつの間にか荷物がいっぱいみたいの方がよくいらっしやいますけれども、そうなるといけぬし、そのあたりはもう一度見直しながら、やっ行っていかなければならぬというのがまず今までの議題です。

あともう1つ30年度に向けてなんですけれども、もちろん教育委員に皆さんにおいてはいろいろな視点でご意見いただいています。視察をさせていただいたときにも申し上げましたけれども、やっぱり時代が変わってきているなというのを最近すごく感じます。私たちが子どもころによかったこと、または今は過去の常識、今の非常識ということが非常に多いですよ。5月の炎天下に何もなしで出て行った時代から、今は日焼け止めをする時代にもなってきましたよね。水を飲んではいけぬスポーツから、水をちゃんと補給してやりましょうという時代が変わってきています。これなんかは分かりやすい例なんですけれども。劇的にやっぱり変わってきていると。1つ私は便所の話をしましたよね。便所と書いてある言葉が非常に違和感があって、やっぱりこれを、説明書きにはWCと書いてあったし、世の中 Toilet と書いてるほうが多いでしょうし、一方でここでグローバル人材を育てると書いてあるから、これに非常にアンバランスを感じるわけですね。そうするとやっぱりこういうことも含めて、やっぱり新しい提案をしていっただかぬといけぬのかなというふうに思いますし、現場に行くと私もそれに気付くのかなというふうに思いました。今大阪のほうでも話題になっている髪の毛の色の話も出ていますね。実は役所では2、3年前から申し上げていて、女性の髪の毛の色のレベルをもっと真っ黒にしなくてもいいんじゃないかと、ある程度いいんじゃないですかという話もしていますし、今いろんな、それこそグロー

バルなんで、目の色の違う方もいらっしゃるでしょうし、宗教の違う方もいらっしゃるの、いろいろな人が出てくるかもしれない。ひょっとしたら豚肉を食べない人が、小学生にいらっしゃるかもしれない。そういうことを考えると、もっともっと多角的な目を持って取り組んでいかなければならないのかなと思います。もう1つ、最近制服の話がニュースで出ていましたね。中学生の制服が平均3万円くらいいるんだけれども、実際直接交渉するとやっぱり3千円強安くあがるんだと。そうすると今までの商取引とちょっと違うやり方をすれば保護者の方々に、ご家族の方々に負担が軽減されるといったこともできると。ということはい今までのやり方がそのままいいんだという発想ではなくて、やっぱり時代が変わるとやり方を変えていかなければならないんじゃないかと。そうすると卒業旅行もそうかもしれないし、そうであったというところから視点を変えていく必要があるのかなというふうに思います。30年度ももうあとすぐかもしれませんし、年が明けてしまえばすぐになってきますので、またいろいろな視点で子どもたちのために視野を広く持っていていろいろな意見をいただいて、よりよい教育体制をつくっていきたいと思いますので、よろしくお願ひしたいというふうに思います。

市長 それでは意見も出揃いましたので、これで平成 29 年第 1 回総合教育会議を終了したいと思います。本日は本当にお忙しいなかありがとうございました。

(午後 4 時 3 分 閉会)